

奉
教
翻譯
西
亞
國
志

四

ル 8
3040
4

75

70

65

60

55

和明云一收表。表

門 8
號 3040
卷 4



止白里總記第十三
止白里地開說第十四
止白里山川記第十五



秦
教
翻譯
魯西
丑國志
四

早稻田大學圖書館
昭 29. 5. 4 號
藏書

魯西亞國志卷之四

土浦藩 臣 山村昌永奉

教翻譯

止白里總說第十三

止白里其地極大ニシテ莫斯科未亞支那ノ間ニマリ古ハ
厄勒祭亞及邏馬ノ世西洋古今沿革凡四總ヲマリ、ヒイルモナルク
ト云フ其第一罷鼻落你亞ナリコレ太古ノ
世ヨリシテ西洋諸國ノ總王ニシテ傳統一千六百餘年ニシテ本朝安寧天皇
ノ十三年ニ當リテ百見西亞國主セリユスコレヲ滅ホシテ其業ニ代ルコレヲ
第二總王トス後上自餘年ニシテ厄勒祭亞國主コレヲチアラキサンデル又コレヲ
滅スコレヲ第三總王トス其後二百八十餘年ニシテ邏馬ノ主ニシテユス、カフコサ
此又厄勒祭亞ノ世ニ代ルコレヲ第四總王トス又其後三百五十年ニシテ、コンスタン
チヌス帝ノ世ニ至テ厄勒祭亞ノ地ニ東都ヲ建テ其後、カパル、ゴカト、帝ノ世
兩都ヲ入ル馬泥亞國ノ中央ニ遷ス然レモ今ニ至テ高稱ノ邏馬ノ帝ト云フ
ナリ此邏馬ノ世ト云フ者蓋シ未ク西都ヲ入ル馬泥亞ニ遷ササル以前ヲ

移(八者)ヨリシテ既名ケテアニアニス、イペリイシト云々、字ヲ以テ
 識辨トス(SEIト云ハ)語、首字ヲ辨テ用ル所者ナリ「シベ
 リ」トハ原コシ「シビル」ト云ハ言ヨリ出タ者ナリ「シビル」トハ斯
 刺勿泥亞及ヒ魯西亞、方言ニテ北方ト云ハハ義ナリト云ハ
 リ又一説ニ北府城、所在、地ニ河アリ「シビル」一名「シビル」ト云
 云フニ因テ其地ニ名ケタルナリト云ヘリ此止白里一名「シボ
 ル」ト大公國「セヘリイシ」ト相混スヘカラス(セヘリイシハ西魯西亞、
 屬川ニシテ波羅泥亞、
 在ナリ)利明ニテ我邦四夷ノ夫(シ)
 在ナリ) 鞋ヲ指テシビルト云不審
 アリニラス、書ニ北國ヲ「アリモン」ト號セリ曰ク厄勒祭亞テ
 ハ此國ヲ呼テ「サハリ」又「アバレス」又「マハリス」ト云其初メ西洋

中興第晉年(日本履中天皇元年
 晋安帝隆安四年)、此國人「ハン」ニア國
(今之翁加カ)、地ヲ侵掠占拠セシテ其後未ダ幾モナクシテ意太
(里亞地)、里亞國及ヒ「ガリア」國(即今之拂
 郎察國)ナリシヲ又大ニコレヲ破滅セシ
 「アマリ」シト云

凡此大地、内ニテ其本國止白里ト稱ス、地其東西南北共ニ
 入ル馬泥亞國、里法ニテ凡二百里(日本、四
 百餘里)其疆界北「サマ
 エ」ニ接シ東「オスチア」ニ接シ西「白尔未雅」公多疎ヨ
 リ「メカ」サ「河」ニ接シ南「カサ」イ「ハル」テ
 此ノ邊ヨリ「阿比河」至リ又其他「阿比河」邊、地「窩尔
 加河」下流ノ邊、地ヨリ人東「夏」テ支那、長城ノ邊ニ至

ルマシノ小省里ノ地ハシテ總稱シテ「キタイ」又大韃靼ト云然
今精容ニシテ地志ハ小省里ノ地ハハカシ洲ニテ北湖ニテ
シヨリヤノ地ト其界ヲ分ケテ凡總止里ト稱スル地白尔
未雅ノ界ヲ離シテ北方水海ニ傍ラスシヨリテ東方ハハカシ河
漢ニ謂黒龍江ト云我邦蝦夷ノ
西地ニテカシトト界ス大河ナリ
本國止白里及ヒサモエテ「シユモウ」ト云フ「バイン」ト云フ「チギニサ
「カウ」ト云フ諸州アリテ「メンガ」ト云フ「蒙」ト云フ邊ニ至ルガハ悉ク
魯西亞ノ帝ノ郡縣ナリ又其口ハハカシ河ニ邊ヨリテ地
皆支那ノ帝ニ屬シテ「コウ」キタイ一名大韃靼ト稱スルナリ其
内ニ古時支那ノ帝ノ種族（蓋ハ金元ノ遺種ト云フ者ナリ）及ヒ韃靼ノ貴族

小玉等アリテ一都ヲ支那ノ帝ノ命ヲ聽クナリ
舊キ地理志ニ或ハ止白里ヲ分テ南北ニ大部トスルアリテ其南北
及疆ヲ詳シズ其中小國甚々多ク其分界交錯シテ明白ナラ
ス惟其北方「サ」ニ等諸地ヲ以テ北部トシ南邊ニハ大
韃靼ノ地ヲ指テ南部トスルニ今地理学諸家ノ説ニ據ルニ上
所言ニ未タ詳審ヲ得サルノ説ナリト云ヘリ凡此地ノ事状ハ「ハ」ニ
テシヨリテ帝ノ世ヨリシテ始メテ其詳審ヲ得タナリ昔時此大地
内ハ數多ノ小國ニ分シ皆自立ノ君長アリ各數千ノ衆ヲ擁シ
時々戦争等ノ事アリテ敢テ能ク一統セルナシ而シテ其止白里
ニヤル者ノ如キハ從來悉ク魯西亞ノ威徳ニ服ス其郡縣トナリ

又其地、支那に属スル地、其内ニ尚無數ノ聚落アリテ各其長
タル者アリコソシキ都シテ汗シ又シタイコシト云フナリ

古ハ魯西亞ニ於テ止白里ノ地ヲ以テ曠荒野鄙ニシテ危懼スルキ

ノ処アリトシテ人ノ往キテコレニ居住スルイナシ唯罪人ヲ放謫セシムル

ノ地トス又魯西亞政善ナラズニテ國中擾乱セシ時國人其亂

ヲ避ケテ家ヲ携エテ往キテ居ヲトセシコトアリ（即コレ下ノ世記所謂
オリシゴメハリロスノカスチ

山シカラスカスカスシ其地高山嶺ヘテ一二百里（日本ノ二
三百里）ガ間ニ連亘齊

列シテ自ラ魯西亞本國ト界ヲ分テ惟スベテ窄狭ナル道路數

處ニ通ス此處魯西亞帝ヨリ成卒ヲ置テコレヲ守ラシム昔時ヨ

リ其コニ謫セラル者其罪ノ輕重ニ隨テ三三年若クハ五六年

最重キハ十年間此地ニ在テ貂ヲ捕ラシムナリ「マルケイシヤ人ハ

千六百四十七年（日本正保四年
清順治四年）此地ヲ旅行セシ時其樹林ノ辺ニ

テ五箇ノ官人ニ逢ヘリ第一ハ入ル馬泥亞國「子テハサキセシノ人第二

ハ羅得林日亞國ノ貴族ニシテ共ニ魯西亞ノ騎兵ノ大將ナリ第

三ハ魯西亞ノ人ニシテ賦稅ヲ董スル上官第四ハ亦同國ノ人ニシ

テ土地ヲ治メ成卒ヲ管ラシ上官ナリ第五ハ其本籍ヲ失ス此五

員ノ官共ニ多ク成卒流人及ヒ土民ヲ指揮シテ貂ヲ捕ラシメ

毎日貂ヲ取リテ官府ニ輸スル定數アリテ其怠ル者ヲ罰スル云

今ハ此地都ラ昔時如キノ荒曠ニ非ス昔時ヨリノ居人次第ニ蕃

茂シ且諸國ノ戦ヒニ勝テテ擒ニシタル者ハコレナリ此地ニ送リテ

居室ヲ與テ衆ヲ植ヘ皆産業ヲ與テ高貴工技等ノ百事
 フナサシメテコレヲ安置セリ故ニ諸處ノ地都テ人居日々多ク
 ニテ此地ヲ旅行スル者其途路ノ心安キク歐羅巴洲中ノ地ヲ
 旅行スルカ如シ故ニ其此地ヲ諳セラル者モ亦其遠詣ニ遇フ
 ト雖モ喜愛ハスニテ居ニ安シ其中ニ或ハ此地ヲ樂ニテ永ク此
 ニ居ントツ欲スル者アリ此ノ如キ者ハ自ラ「マスウ」ノ官府ニ至
 リテコレヲ請ヒ其免シヨ受テ之ガ家族ヲ迎ヘテ共ニ此ニ來テ居
 住スルナリ（蝦夷地ニ十年住居セシ波國ノ人「イシスヨ」カ曰止白里大
 地ニ東方支那日本朝鮮琉球等國々人多ク住居セシト）
 又「ル」チニテヤシ「帝支那」ト隣好ヲ通シテ屢々使ヲ支那ニ遣ス其
 路必ク皆里ヲ經テ彼ノ刻ニ道路極テ險阻且遠ナリ故ニ止白

里ノ地理ノ形勢ヲ精密ニ考察檢査シテ山ヲ開キ川ヲ通シ大ニ
 踏ヲ開キテ其捷徑ヲ得セシメ是ニ因テ唐支那ノ「シヤラス」諸方
 ノ行路皆大ニ其便ヲ得ル「家」此帝ノ地理ヲ詳ニセハ「賴」リ
 凡昔時止白里ノ地理ヲコレヲ詳ニスル「イナ」シ其後魯西亞ヨリ屢
 使ヲ支那ニ遣シ殊ニ「エイス」フ「ト」人（又名「イス」フ「ト」人
 「ト」ト云キ六百六十二年ニ
 年ニ當リ魯西亞帝ノ命ヲ受テ支那ニ使セリ「ト」ノ高貴ノ「ハ」マニア
 除見エ「ト」六百六十二年日本ノ元祿五年清康熙三十一年ニ當リ）入ル馬泥亞
 國ノ地ニシテ「マ」コ「ヨ」リ支那ニ旅行シ止白里ノ地ヲ徑歴シテ
 頗ル「コ」シ「詳」ニセリ其後「ウ」レ「ス」ラ「ン」ケ「ユ」マ「ル」人「千七百一十九年
 日本正徳五年」ニ支那ニ使ス此時ハ旅行前ヨリ「捷徑」ヲ得ナリ
 清康熙三十四年」又支那ニ使ス此時ハ旅行前ヨリ「捷徑」ヲ得ナリ
 其行程ノ日記後學ニ便リセンガ為ニ下篇ニ抄録セリ此等ノ

後地理家次第其精密得テ此地内諸地相距、達近
 幾何或ハ度数ヲ以テコレヲ測リ或ハ旅行ノ日程或ハ里數ヲ以テ
 コレヲ計ヘテ今ハ都テ此地理ヲ至テ明白ニセリ而シテ魯止無於
 テハ里ヲ呼テ、ハスステシ又ハハスステシト云ハテハ八十ハハスステシ
 以テ土地ノ緯一度トス入ル馬泥亞國ニテハ十五里ヲ以テ土地、
 緯一度トス乃チ魯西亞、四里ト又一里ヲ四分ニスル、コレヲ入ル
 馬泥亞、一里ニ當ルナリ或ハ曰ク魯西亞、五里ニテ入ル馬泥
 亞、一里ニ當ルコトハ非ナリ若此說ニ依ルキハ魯西亞、八十里、
 ノ入ル馬泥亞、十六里ニ當ルナリ然レバ土地、緯一度、里程
 差ヘリ是ヲ以テ其說、非ナリトシ推知スベシ

利明曰前、魯西亞、里法ニテ八十里ヲ以テ緯一度、里程トスト又
 入ル馬泥亞、里法ニテ十五里ヲ以テ緯一度、里程トスト云ハレコト
 互通ハハ魯西亞、里法ニテハ五里三分里之一ヲ以テ入ル馬泥亞、
 里法ニテ一里トハナリ本文、算用ニ相違ナリ是ヲ記スナリ
 尚拂郎察、地理志「カトドコロオド」載ル所ヲ取テ記スナリ如次

緯一度、里程日本三十里

- 「イタリヤ」六十里
- 「エスコピア」八十里
- 「エンケラ」四十八里
- 「フランス」二十五里
- 「スペイン」十八里
- 「セハマニア」十五里
- 「イルウエ」九里半
- 「カンガリア」十里

里法曰魯西亞八十里為一里入ル
 馬泥亞十五里為法實如法而一
 得高五里奇零五里其奇零五
 里与法十五里五減得奇數五里
 以約法為三個約奇零為一個名
 之為魯西亞五里三分里之一入
 爾馬泥亞一里也
 西國里數互通之法皆如此矣

「イサアカホツ」ト云人ノ説ニテ古、世ニ「カ」カ所製者、世ニ名高キ
 「キス」カウリイカ、己貴者人所服用飾ニテ其製金銀、如、下、小羊、
 形ヲ懸テ、按ルニ「カ」カコトヲ製ツカユス、王侯、服飾トナセシ

漢土周成王十八年癸卯當此(キエニシカ)厄勒祭(厄勒祭)地ヲ除テ他
フリイニ服飾ハ今ニ至テ入馬泥亞帝(即屬嶋)ニ用ルコトヨ
ニハ存ス(キニ非ズ)其コト用テ所革今ニ存スル者蓋ニ貂皮ヲ以テ
革トセルニ似タリ厄勒祭亞人モ亦何物ノ皮ナルヲ知ラス惟云フ
是タイア的古ノ北方ノ國名今ノ西(魯西亞及止白里辺)ヨリ出ス羊皮オラントトスハッスノ皮匠皆
曰ク此服飾ヲ製スル皮ハ我カ土(オラント)ニ産セス古ノ世ニ止白里
ノ地ヨリシテ諸國ヲ轉賣シテ來ル者ニシテ甚タ珍貴ナリ其價
黃金ニ等シクコレヲ償フモノヲ寶ト稱セリト云フ

中興第一千三百年ノ北ヨリ始メテ止白里ノ地ヲ知ノ説并ニ
此地ヲ魯西亞ニ屬シタル始末ノ記第十四

凡昔ヨリシテノ莫斯科未亞ノ書ニ止白里ト云ハ地名ヲ記セル者サ
ヘモ亦甚稀ナリコレ止白里ヲ以テ不毛ノ惡地ナリトシテ置テ論
セサレバナリ故ニ北大地莫斯科未亞取テ接スト雖モ此地ノ事狀
如何ト云フヲ知者ナク人亦敢テ此地ニ往ク者ナカリシナリ此地ノ
事ヲ記セル者只「コルキススハウカス子チヌスト」云人ノ紀行ニ所載者ニ
最古トス然レモ此人敢テ遍ク此地ヲ經歷シタルニ非ズ故ニ多ク
ハ傳聞ノ記話ニシテ悉ク的確ノ實ニ目睹シタルノ真説ニ非ズト雖モ亦古
ノ事狀ヲ見ルベシ故ニ今其書ノ原文ヲ左ニ抄録ス(按ニヤルキニハリ
ヒス、(子チヌスト)意
太里亞國勿撈祭典ノ人ニシテ一千二百七十五年(十八)ニ往キテ往キテト云
ツラト云ハ王ノ事ハ其王ノ支那ヲ併スル時ニ隨テ支那ニ往キ前後十七年ノ
間稍重ク用ラシ其後印度ヲ經テ百七、本國ニ歸リト云フ云々ト云フ元ノ世祖
ニ忽必烈ノ博シタルナリ一千二百七十五年元至元十二年

其画凡韃靼北方内地居之諸部其王族種族古ヨリ地ヲ分
テ保テ其人都テ鬼神ヲ信スル極テ甚シ其神ヲ稱シテ
ナチカイト云フナチカイハ此土ノ名言テ土地ノ主ト云ハル我ナ
リ而シ其像ノ如キ即種々ナラス其諸部或ハ城邑ヲ建テコ
シ居者アリ或ハ惟原野林麓山中石間等ニ散居セルモアリ
テ其種類甚タ多シ土地ノ諸穀ヲ生セズ人皆嗜テ畜獸ノ
肉及シ乳汁ヲ喰フ其俗和怡ニシテヨク一致ニシ其主ノ為メ
ニカヲ竭ク其所畜馳馬牛羊類勝テ計ヲハカラス其他大
熊野驢及シ皮ヲ貴重スヘキ狐ノ類亦甚多シ
又一種ノ小獸其皮毛甚柔ニシ貴重スベキ者アリ名ケテ「サア

ヒト云(即貂)他ノ野獸同ク林野ノ間居人コラ捕テ其
皮ヲ取其肉ヲ食フ
此地方ノ地上ニ所立ヨリ最モ遠キ諸部其地皆山嶽殊
ニ多ク「サアベレ」(貂)「ヘルメレン」(獸)黑狐及シ種々ノ奇獸
ヲ出ス土人コラ獵テ其皮ヲ取ハ我邦(俄羅)ノ高貴多ク
コレヲ購求ム然レモ馳馬牛驢等ノ大獸然ラズ土氣多
クハ沮洳冬月ノ寒氣極テ甚シク氷堅凍ス其他ノ時モ
寒氣亦甚シト雖モ氷ハ甚堅凍セス人多ク車馬ニ駕
テ往來ヲ為ス又此地内沼澤ナク亦井ノ水ヲ見ガ蓋シ其
人多ク氷雪ヲ用ヒテ水ニ充ツルナリ

此地ノ北方ニ向ヒテ行程凡十三日ニシテ至ル處アリ此處ハ
野獸殊ニ極テ夥シ土人其皮ヲ採テニシテ以テ利ヲ得ル
甚々多シモ外邦ノ貴人此處ニ至テ其皮ヲ購ヒ貨物ヲ交
易スルニ因テナリ此地トシテハ如ク沮洳氷雪多クシテ行路
艱難ナリト雖モ貴人多ク深ク其地内ニ入ル者ハコレ此地ノ人
大犬ヲ畜テ其犬ノ大抵驢ノ如シコレヲシテ橇車ヲ牽カシム
其車ハ輕クシテ平ナル木材ヲ以テコレヲ造リ其大キサ二人ノ
座スルヲ容ルベシ他邦ノ人此ニ至ル即此土人ニ托テ車及ビ犬
ヲ賃シ則一車ヲ引クニ犬六頭ヲ用ユ人多クテ犬ヲシテ後ニ
從カハシメ則其車ニ駕シ氷雪感^或沈海^ル路ヲ行キ毎日

其犬ヲ換ヘテ昨日車ヲ引タル犬ヲハ憩息セシメテ亦車後ニ
傍ヲテ行シム而シテ數日ヲ過テ彼地ニ至ル即數處ノ村アリ其
人亦皆多クノ狗ヲ畜テ此處ニ於テ多ク獸皮ヲ賣買ス但
其車ハ多ク貨物ヲ載スル地ハ只商人ト獸皮トヲ載ル
ノミコ車ノ製廉シ大ニ亦其力甚々重キ貨物ヲ載セ
タルモノ引クニ堪ハズ即此如クニシテ多ク其遠キ處ニ至テ交易
ヲナスヲ得ルト云

以上、コレキテハハカスス、ヘ子テユス、書ニ所載ナリ

昔時記載スル所ニ皆此ノ如キ者ニテ未タ其詳悉ヲ得ル者ナリ
此他ノ事状ノ如キハ魯西夷ノ帝ノ郡縣トナリテヨリシテ次第ニコレ

ヲ詳ニスルイヲ得タルナリ 因テ其始末ヲ左記シテ以テ後学ニ使リス
柳モ止白里ノ地ノ南タル始末ヲ尋ヌルニ昔時魯西亜ヨリ地ヲ開キ
テ「ソバコキセ、ロサツシ」ノ地并ニ「デズイ」ノ河ノ辺ニ至リし時ニ其地ニ居リ
シ酋師部衆等ノ内ニ魯西亜ニ属スル「イ」ヲ樂シマサル者アリテ
其地ニ拠守シテコヲ拒ミシガ魯西亜ノ執盛ニシテ敵スルヲ能ハセシ
因テ皆敗走シテ窩ル加河ニ傍ヘテ加山ノ地ニ至テ寇掠ヤセシカ又敗
走シテ「イ」ノ河ノ辺ニ至リシヨリ又久シカラズシテ「イ」ノ河ノ「ボ
ル」河相合スル処ニ至リ此ノ地城邑ヲ建テ名ケテ「トナル」ト云ヘリ
彼既ニ城邑ヲ建テ其地ニ拠リシヨリ次第ニ地ヲ開キテ河北河ノ周辺
ノ地ヲ悉ク領セリコノ別所謂本國止白里ノ地ナリ其地多ク貂皮

諸獸ヲ産ス其人ユレヲ獵取シ其皮ヲ以テ交易ヲ為サリ然レニ
莫斯科未至ト此地ト間山嶽隘阻シ河水及ニ下濕地多ク自ラ
二國ノ界ヲ分截セルカ故ニ行路艱難ニシテ商賈往来シテ貨物ヲ
相通スルニ甚容易ナラサリシヨリ

其後「マ」ト云フト云ル河ノ傍ヘ「オ」ワ「イ」ラ一石ソ「ル」ト云ル地一箇ノ富人
アリ名ヲ「ア」ニカト云フ此人専ラ「サ」ニ「デ」シ(所謂小
人國也)ノ土人ト往来シテ
夥シク貨物ヲ交易シテ大利ヲ得ル「サ」ニ「エ」シ「ノ」人ト「ロ」ヲ樂シ「コレ」ニ
懐ク「ア」ニカ即「巴」ガ臣僕ヲシテ「サ」ニ「エ」シ「ノ」人ト共ニ「サ」ニ「エ」シ「ノ」及其
辺ノ諸処ノ地ニ往カシメテ偏僻ノ地ヲ雖モ精密ニコレヲ探索シテ貨
物ヲ貿易ス此ノ如クテ恒トシテ其富ムルヲ勝テ言フヘカラス而ソ

其隣界、地居者多、其富羨、妬者アリ、アミカコレヲ知テ
其久、コレヲ其害ヲ先シテ計、コレヲ因テ魯西典、コレヲハトシテメトルム、コレヲハ
コレヲ帝ハ魯、コレヲボカスキエテ、コレヲ親ミテ結、且巳カ居、コレヲ地ノ近
邊及ヒ、コレヲサエテ、コレヲ等地理形勢ヲ告、若魯西典ヨリ聞ヒテ其
地有テ、コレヲ國家益、コレヲナルベキ、コレヲ道理ヲ説ク、コレヲホリス、コレヲコレヲ帝ニ奏、コレヲ郡
使、コレヲ彼地ニ遣シテ其道路、コレヲ除易及ヒ山川形勝ヲ詳シ、コレヲ其便
利、コレヲ本地ヲ撰ミテ先一座、コレヲ城地ヲ築ク、コレヲヘキ、コレヲ處ヲ楨直セシメ至ル
處皆大、コレヲ其土地、コレヲ衆ヲ會シ衆、コレヲ前ニ於テ彼魯西典、コレヲ使者ヲ
甚尊敬礼待シ、コレヲ又大魯西典、コレヲ徳化シテ宣揚シテ其帝威徳尊

大ナルハ誠ニ神、コレヲ如云、コレヲソ告ク、コレヲアミカ、コレヲ素ヨリ諸部人、コレヲ心ヲ得タリ、コレヲ今ア
コレヲ西典ハ魯西典ヲ尊シ、コレヲ此、コレヲ如キヲ見テ諸部人、コレヲ皆コレヲ信シテ都
コレヲテ魯西典、コレヲ徳化シテ從ハシ、コレヲソ願フ、コレヲ是、コレヲ於テ魯西典ヨリ來ル者、コレヲ
數ヲ、コレヲサエテ、コレヲ地ニ留メテ其地言語ヲ習ハシメテ往來通事
ニ便リシ、コレヲ又サエテ、コレヲ長者數人ヲ伴ヒテ、コレヲス、コレヲコレヲ帝都ニ至ル
コレヲサエテ、コレヲ人其帝都、コレヲ繁華廣大、コレヲ皇宮、コレヲ美麗威儀ヲ尊
重ナルヲ見テ皆大驚異、コレヲ敬服ス、コレヲ朝見シ畢テ、コレヲコレヲ食ヲ賜フ、コレヲサ
コレヲエテ、コレヲ地薄ク人貪ミテ其平生佳味トス者、コレヲ僅ニ乾魚、コレヲコレ
今所賜、コレヲ豊饌美味ニ逢フ、コレヲ又大奇歎賞、コレヲ美シテ益々魯
西典、コレヲ内附ナルヲ願ヒ、コレヲ乘、コレヲコレヲ堅クセリ

索

海

カエデシ人每事魯西亜富盛ナル信服シテ即永ク其属州ト
ナリテ其命令ヲ受ケテヨク樂ク旨ヲ誓フ是於テ帝都ヨリ其
地長官ヲ遣テ海ヲ專ラ仁政ヲ布テ其人ヲ撫育教化シ人
皆其徳行ヲ感佩シテ「カエデシ」諸部地悉ク帝ノ郡縣トナ
ル是ヨリシテ魯西亜ハ益盛ニシテ次第ニ遠ク北方諸地開拓
セシメテ欲ス

是時魯西亜國中ニ箇ノ有名賊アリ名ヲ「エシヤク」トモヘイコニス
テテカトルス、イハ「コニス」帝ノ父「コニス」ハ「シリダス」帝時ヨリ
シテ多ク、賊徒ヲ聚メテ首トナリテ処々地出沒シテ盜掠ヲ
志シ人氏ヲ恫マシテ其害ヲナスヲ勝テ計フハ「カエデシ」因テ

Yermak

釜地

魯西亜ノ官府ヨリ大軍ヲ遣ヒテコシテ征剿シテ其跡ヲ
追尋セシム彼レ即其黨ノ帥ヒテ駕河、上流ノ処ニ奔リ
又其從駕河ノ流沿テ上ニ去ル「アムカ」ガ居処地至リテ潜ミ
藏ル「ヤカ」ノ元来莫斯科未西國ノ生レシテ別号ヲ「スロキ」ト
ト云其所居地肥テ田園多ク河ニ沿テ長サ入ル馬泥西國ノ里
法ニテ凡七十里(日本、百四十餘里)アリ「コシマク」此投シ至テ憐シクシテ「アムカ」
ハ本主「エシヤク」ガ祖父ナリ然レモ其賊ヲ為スヲ以テ久シク絶テ通
セズ今彼ガ憐シクシテ因テ即コレヲ魯西亜ノ帝都ノ官府ニ
請テ曰ク若「エシヤク」ガ罪ヲ赦ス「アムカ」蒙ラ彼レヲシテ所從ノ徒
黨ト俱ニ止白里、釜地ヲ經畧セシメテ皆帝畿ノ州部トナシ

功ヲ多ク以テ其罪ヲ贖ハシクヘント官府即其請ヲ所ヲ許シ「エンス
ムカ罪ヲ赦シテ止白里ニ向ハシム是ニ於テ「アムカ」大ニ其軍用ニ舟船
兵器ヲ造リ又多ク軍卒ヲ募リ「モマリ」コシテ其黨ト共ニコレヲ帥
テ止白里、地ニ入ルコト其船制輕捷ニテ進退ニ真ニ名ヲ「ロヂンス」
ト云「エレコリ」コレニ東ニテ先「セ」コレニ「イ」河ニ入ル此河其源ハ「ウ」ヤ「リ」ア
ノ地、大ニ東北ニ出テ流ラシ「ヤ」ヤ「河」合ル此河、上流、地ニ
至テ其地ヲ徑略シ舟ヲ列シテ「ギ」河ニ至テ又其地ノ地ヲ取リ又
此河ヨリ「ミ」離ラシ「チ」河ニ至リ其河邊、ハ「チ」ト云「城」ヲ攻メ
ラコレニ勝テ遂ニ其城ヲ取リ其居人ヲ悉ク屠殺シテ此城ニ成卒ヲ
置リ（按ニ下ノ第十六篇「チ」ヤ「ミ」ノ條ニ云此地昔「セン」ヤ「ン」、王都ニ精兵一
万人アリ後「チ」ヤ「ミ」ハ十五年、魯西丑ニ併セラルト云云即此時ヲ云ベシ

此後次第第ニ諸部、地ヲ略シテ「ト」ホ「ル」河、上流ニ迄、遂ニ止白里國都
ト「ホ」ル「キ」地、系北都、止白里、知主居所、府ナリ其知主名ハ「ア」シ「タ
ナイ」コレニスエウ「ム」ハ「チ」ヤ「年」僅ニ十二歳近ニ其祖父ノ位ヲ嗣テ「モ」ト「ナ
リ」者ナリ「エ」レ「マ」ク「此」ヲ「即」其府ヲ却掠シテ其城ヲ圍ニ攻ニ城
中ノ人防ニ戰ヒテ「エ」シ「マ」ク「ガ」兵少シク敗レテ大然シ「反」シ「ロ」ク「強」クコレヲ
攻ニ暫時ニ其城ヲ陷シ遂ニ其知主ヲ擒シテ「エ」ス「コ」ウ「ニ」送ル此府
ニ精兵ヲ置ラコレヲ守ラシム（按ニ次總ノ高賈ノ記ニ地戰ニ止白里ノ「エ」ヲ
射殺シ其子ヲ擒シテ「ロ」ス「ロ」ウ「ニ」送ルト云此
異ナリ）此知主ハ帝ヨリ宅ヲ賜リテ其後久シク「エ」ス「コ」ウ「ノ」居住セリ
「エ」ス「コ」ウ「ノ」人コレヲ呼テ止白里、太子トシセシナリ
「エ」ル「ヨ」ク「既」ニ「ト」ホ「ル」ス「キ」都府ヲ平定シテ後北都ヲ發シテ「イ」ル「チ」酒河

泛、此処都ヲ去リ尚遠カラス然、其夜至テ忽、韃靼人
衆ヲ聚テ不意ニ襲ヒ來(此止百里)衆皆倉卒トシテ出テ戦フ、
レリ亦出ラレテ所來ノ舟ヨリ傍ラナル舟ニ飛ヒ移ラントシテ誤テ
水中ニ落ツ身ニ重鎧ヲ著シ手ニ劍ヲ把ル故ニ水ヲ出浮テ能ハズ
倉卒、際人亦シテ救フコト得ス既、戦フ中ニ韃人退ラシモ、カ屍
尋シテ遂ニ見得ズ蓋シ水流太々急ナリ因テ水熱ニ因テ屍逆ニ
流ヒ去リタリ、アリエシカ祖父アリカコシテ聞テ援兵ヲ出シ普西再、
將モ亦六百車ヲ帥テ共ニ彼韃人ヲ撃テ、韃人悉ク敗セリ是
ニ於テ尚殘ハ所、止百里、地ヲ經若シテ諸處ニ守兵ヲ置キ土
人皆帰服シテ本國上百里、地ハ悉ク普西再、郡縣トナシコ

レ一千五百八十七年、(日本天正十五年) 事ナリ
(明萬曆十五年)

魯西亞國昔ヨリシテ皮革ヲ出シテコレヲ以テ他國諸方ニ交易スルニ從
未已ス久シ今復此止百里本國、地ヲ併テ得テ此國紹及ヒ諸獸皮ヲ
出スル亦殊ニ極テ夥シ但此國北方僻遠、地ニテ貨物ヲ遠キニ
運送スルニ未タ其便ヲ得ズ又歐羅巴諸國ニ陸路ヨリ西細亞
洲、地ヲ經テ支那ニ通シシコト欲スルニ後來亦既ニ久シレバコレ亦
行路、使ナルコト得ス便
按、此ニ云フハ、コトハ、ハ子、エ、エ、ナ、者、支、那、ヨリ
日本國ニ歸ラシテ曰ク、支、那、都、ヲ、シ、テ、名、其、廣、大、壯
麗、ナ、リ、天、下、第、一、ナ、リ、ト、其、他、那、繁、華、富、饒、ナ、リ、ト、渠、カ、所、名、書、ヲ、説、キ、
故、ニ、歐、羅、巴、ニ、於、テ、支、那、ニ、通、シ、ト、欲、セ、シ、ト、其、由、來、既、ニ、久、シ、ク、ハ、京、師、ヲ、轉、ナ、リ、
コ、ノ、人、ノ、行、程、近、カ、レ、バ、シ、ト、思、フ、処、ハ、多、ク、ハ、最、除、難、ニ、シ、テ、且、人、モ、明、ニ、其、路
ヲ知ル者ナリ又既、路ヲ通スル処ハ亦行途、間時日ヲ費スル極テ

日本國

多ク其間亦山川崎嶇土氣モ亦一ナラサルニ因テ処トシテ夏月
行ニ宜キモアリ処トシテ冬月ノ行ニ宜キモアリテ(コレ行路中ニ或ハ夏月
ハ沮洳ニシテ行クニ宜
カラス冬月ハ氷雪ノ凝ルニ因テ却テ車馬ヲ用テコレヲ過クハ宜キモ或ハ冬月ハ
寒最酷烈ニシテ往來ノ通シカタクキリ夏月ノ温暖ニテ行旅ノ者ニ少キ等類
ハ)或途申滞留スルニ多ク故ニ支那ノ行旅ニテ又本國ノ遠ニ其
任遠ノ間凡六年ヲ經テナリ(按大清三朝東錄ニ順治十七年五月倭
寇至是始至トアリ此ニ所言今ハ順治十七年
ハ乾隆ニシテ帝父セシメシカハコレハ帝世也)然レ今ハ甚捷ニシテ便利ナ
ル順路ヲ開キ得テ「モスコワ」ヨリ發シテ僅ニ四箇月ヲ經テ支那ノ北京
ニ至ルニ得テナリ(コレモ云々ハ如ク「ハナシ」ヲテテ帝ト白黒地理ヲ詳
メ山開キ川ヲ通シ順路ヲ得セシ「チク」以來ノ事ナリ
支那通シテ道路此ノ如ク捷徑ヲ得ル者魯西亜ノ帝遠ノ上白
里ノ全地ヲ開拓シテ支那ニ至ラズ間ハ澤ソ開キテ道路ヲ通セ

宋東訛

シムルニ因リ其古里ニ全地ヲ開キテ魯西亜ノ有ラシクハ今ノ魯
ニ或カクテ勝テコレヲノ從屬ニシタルニ非ス此諸部、次第ニ
魯西亜ノ徳分慕ニテ服從レシヨリ願フニ因テ帝ヨリ其諸部ノ地
守リ置キ城邑ヲ建テ其分極育教誨ニテ如此ノ地ヲ開キ得テリ
魯西亜既ニトホスキ、城邑ヲ取テ本國古里ノ地ヲ併セテ後ニ即先
阿北河ニ傍ル地ヲ開キテ此処ニ「セム」ト名シシムルニ云ハル府城
ヲ建テ此府ヨリ衆ヲ發シテ亦南方ニ百里(日本)、間ヲ開キ
テ此処ニ「ハニス」ト云ハル城邑ヲ築キ其土人ヲ懷服シテ交易
ヲ為シシメテ其地ヲ賑ハセリコレヨリシテ周匝四百餘里(日本、ハ)、
間ニ多クハ土地肥テ田園ニ宜シク人居極テ稀ナリ因テ其内ノ

良キ処ヲ撰ミテ衆ヲ処ニ遣シテ其地ヲ開カシム此後三年(「ハヒレ」
ノ城ヲ築キテヨシ後)ノ徑ヲ復河北河ニ沿ヒテ上流ニ百里ノ処ニ於テ一
基ヲ善キ地ヲ開キ得タリ此処ノ土地肥沃氣候温暖シテ冬寒ヲ
怕ス最モ城邑ヲ建築スルニ宜シ故ニコレヲ「エスコウ」ニ名ケ「モラウ」ヨ
リ令テ止白里ノ都督守令等ニ傳ヘテ此地ヲ經營シ邑ヲ置キ
城ヲ築テ「ハナム」ト名ク此時又「ハナム」ト云ハル地ヲ開キテ府ヲ
置キ「エスコウ」ト云ハル城ヲ築キ守軍卒ヲ置キテ備ヲ嚴ニス
其後三年ヲ経テ復衆ヲ遣シ橈車及ヒ馬ヲ帥ヒテ東方ノ地探索
セシム然レ其地理人物皆未ダ詳ナラサルヲ以テ「サエエテン」ノ人ハ其
内ニ彼地ニ往來セシ者ナルニ縁テ即「ロモテレン」ノ人数箇ヲ用テ嚮

導トシテ東方ニ向テ旅行セテ凡テ十日其間ニ大ニ野地ヲ過キテ一
善地ヲ得タリ此地肥沃料理ニ宜ク菓樹多ク又河水多ク平地原
野ニ於テ時ニ穹廬アリ相次テ多ク聚落タル処ニ至リコレヲ「サ
ンギユン」ノ種族ニシテ「エスコウ」ト名大河ニ沿ヒテ長ク居住スル者ナリ
其人魯西亜ノ人ヲ侍ルルニ甚厚ニ因テコレニ親シク貨物ヲ與フ
彼益喜ビテ魯西亜ノ官長ヨリコレヲ撫育教化セリコレヨリレ
テ「サキ」ノ置ク所、魯西亜ノ官長ヨリコレヲ撫育教化セリコレヨリレ
テ又「サキ」ノ人ヲ用テ嚮導トナシテ尚東方ニ向テ多クノ地
ヲ開キ得タリ而シテコレヨリシテ南方ニアル所ノ地多クノ君長聚落
分シ居テ時々相互ニ戦争アリ其地理モ亦詳ナラスト「トシキユ

セシ、人言フニ因テ則南方ニ向ハスニテ退ラハシキニシテ、地ニ遠リ
テ又近傍諸部、地ニ周防セリ諸部、人皆魯西垂ノ人ヲ待
スルニ甚親切ニシテ皆誓テ魯西垂、化ニ服セシメテ約ス因テ
魯西垂及ヒテサモテシ、人数箇ヲ此地留メテ其土人深ク好シ
結ビテ其土産ノ物ヲ收ム

次年ニ人衆ヲ發シテケンキニシテ、人数箇ヲ嚮導ニシテ東方ニ向ヒ
遠ク地理ヲ探索ニシテ、河水辺ニ至ル北水幅甚ク廣キニ非サレ
比其流勢、急ナリ、河ニ異テラス北河ヲ渡ラシ、尚他方
ノ地ヲ開カシテ、炊テ而シテ此河辺ノ人言語甚ク殊異ニシテ通セサル
ニ因テ其内數箇、人ヲ掠奪シテコレヲ指引教導ニシテ漸ク親熟ニ

テ言語ニ通セリ、因テ此河、名ヲ「ヘビ」ト號スルニテ知ル且シテ彼
對岸ノ地ニ人居多クシテ畜獸亦盛ナリト此於テ即彼地ニ至テ
コレヲ開カシテ識ル、間此處、氣候不順ニシテ人病ヲ生シ死スル
者多クシテ遠處ニ至ル途中人少クシテ変テシテ恐ニ因
テ彼地ヲ開クニ他日ヲ待ツヘシトシテ再ヒ退キ歸レリ

其後魯西垂、昔百里ニ於テ再ヒ遠ク彼地方ヲ開拓セシメテ識リテ
コレヲ官府ニ告テ百里ノ府ヨリシテ衆七百ノ人ヲ發シテ、阿比ホ
ユニテ、而大河ヲ越テ再ヒ彼「ヘビ」河辺ニ至ル然レニ彼地飢饉
ニシテ人相殺相奪ニ因テ遠ヨリコレヲ觀望スルニ時トシテ鐘聲大
ニ響キテ人馬騷擾シ殊ニ風起テ水波逆立、間、嶺、雜、繁

嶺

據タリ勝ヲ言フヘカラス或ハ時トシテ舟ニ方形ノ帆ヲ張テ水ト
走ツテ乱雜スル時モアリ即共ニ談ノ曰此地ヲ開ヘキ期未タ
至ラス尚再々時ヲ待ツヘント因テ復退キ還ル此時既ニ夏月
ニヤタリテ行途便利アリ歸路ノ行程ヲ費ヤサスニテ還テ其
由リ魯西典大君「ホリス」ホリスニ談ノ即明年ヲ以テ再
衆ヲ發シテ導開キヘンタ河ヲ越シテ令セリ然レモ其内ニ魯
西典國中兵起テ國亂ス因テ其軍告スコレヨリハ未年「レンドラ」ガ
兵起テ凶テ其事世記詳
魯西典國戰爭數年止ムル因テ帝都ヨリ東方ヲ開クイテ
談スルニ暇ヤラスト雖モ止白里ノ府ヨリシテ復衆ヲ遣テ東
方ニ向ハシム然レモ又途路ノ氣候不順ニシテ人死スル者アリ故ニ遠

ク殊方ニ至ラスト雖モ此時始テ彼上ニ云ルヘンタ河ヲ越ヘテ其辺
土人ヲ悉ク服從セシメテ其地ヲ開キコレヲ詳ニスルヲ得タリ此
処ニ火ヲ出スルヤリ其辺ニテ多ク硫黃金石類ニ黄金ヲ得テ
コレヲ携歸ル因テ鑛工ヲ遣ヒコレヲ開キテ黄金ヲ採ラシム
其後止白里ノ府ヨリシテ又衆ヲ發シテ數艘ノ船ヲ以テ阿比河ヨリ
シテ北海ニ泛シ岸沿ヒテ「エニス」エニス河ニ至リコレヨリシテ河ニ沿ヒ
シメ又別ニ衆ヲ遣シテ陸路ヨリ「エニス」エニス河ニ至ラコレニ會ヒテ
共ニ地理ヲ詳ニシム此時水路ヨリ進ミ大将リ「カ」カ者
其海陸ノ行程圖說等ヲ詳ニ記録シテコレヨリシテ此辺ノ地
理大ニ精詳ヲ得タルナリ

此旅行際ニ又新ニ一河水ヲ見出セリ名ヲ「タアエ」ニ其源ハ「エ
スセア」地方ノ大林中ヨリ出テ流レテ向北河ニ入ル又林中ヨリ別ニ一
ノ河水出テ「タカス」河ヲ去ル一途カラスシテ「エスセア」河ニ合又河
北河ノ流ニ順ヒカスラシノ地ヲ通流シテ海ニ至ル処ヲ去ル一凡
ニ百里（日本、西）ナル所ニ河ヲ「トルカ」ニテテフコトヲ過テ「エスセア」河
ニ通スヘシ

北後魯西亜ノ國中再ニ平治ニ及ヒテヨリハ帝都ヨリ命シテ次第ニ
東方ノ地ヲ開拓スル其人ノ慷慨ニシメ屢々衆ヲ發シ道ヲ
開キテ帝ノ郡縣トシテ地遠ク支那ノ界及ヒ東方ノ大海（日本）
（蝦夷ノ大海）及ヒリ且歐羅巴洲ヨリテ屢々「サアイカ」トシテ海峡

（「サアイカ」地新
増白臘トシテ海峡）ヨリ船ヲ通シテ北海ノ東方ヲ過キテ支那ニ至テ
シトスルノ路ヲ求メテハ既ニ今魯西亜地北如ク開ケテ六歳ヲ
経ニ後ニ遂ニ歐羅巴諸國ヨリ支那ニ通スルノ北海ノ船路ヲ開ケシ
トシ得ヘキナリ

魯西亜ノ地北如ク漸クニ廣大ニナリテ既ニ支那ノ地ト界ヲ接スルニ
因テ即支那ト和好ヲ固クシテ彼國人ト貨物ヲ交易スルナリ
其貨物ノ如クハ本國ヨリ陸路ヲ運送シ有テ貨物ヲ運送シテ國
家ノ利益ヲナスコト少カラス其支那ニ至ルマテ要地境界ニ皆新
城ヲ築キ守ヲ置テ其境界ヲ堅固ニセリ然レテ支那ノ境ニ
入ルハ「ア」リニ因テ支那人魯ヲ「ア」来テ戦フコトセシ「ア」モアリシ

スレトモ

ナリ(此事亦下、城地、記及、次、偏、高、賈、記、見、即、廉、熙、二、十、八、年、三、清、朝、ヨ、リ、兵、ヲ、遣、シ、雅、克、薩、城、ヲ、攻、シ、時、事、ニ、シ、テ、盛、京、通、志、大、清、統、紀、沙、紀、畧、等、書、ニ、)魯西丑既支那通之、路、教、道、ヲ、開、キ、テ、ヨ、リ、ハ、
 往來甚便利且其地東海(日本蝦夷、西海シユ)濱ニ至リテハ海道モ
 亦開テ得ナリ(利、明、曰、東、蝦、夷、ノ、レ、ナ、ク、ハ、嶋、ヨ、リ、成、亥、ノ、省、ヲ、渡、海、凡、三、
 百、里、計、リ、シ、ラ、ク、ナ、ホ、ソ、ヨ、イ、ト、テ、ハ、長、湊、ヨ、リ、此、處、ヨ、リ、
 船、出、シ、蝦、夷、諸、島、及、カ、ム、ス、ト、カ、ノ、大、地、及、北、亞、墨、利、加、屬、諸、
 嶋、及、北、亞、墨、利、加、大、地、ヲ、モ、履、船、ヲ、通、シ、其、人、ノ、撫、育、交、易、シ、テ、其、貨、物、ヲ、
 運、送、ス、ル、ト、モ、)近來止白里及屬國中陸路モ客閉ケ且航海ノ術モ日
 々精密ナリヨリ舟ヲハ海ニ航シ友那日本等亞細亞洲諸國ノミナラ
 ス亞墨利加洲諸國ニ通スルニモ亦容易ナリハキナリ
 魯西丑人ノ説ニ曰ク北亞墨利加地ハ最初ハ止白里ノ地ヨリシ
 テ人ノ渡リテコレニ居住セシ者ナト云ヘリ何ントヤレハカウガイナリ河
 及コレト河ヨリシテ海ニ入ル處ニ大ナル島アリテ人居亦多シ此

處々ヘモツト云ヘル獸アリ此獸陸ニモ居リ亦水中ニモ居リ其有ハ
 甚ク美シシテ世ニコレヲ珍重セリ故ニ土人皆其家屬ヲ討テ海
 岸ニ聚リテ此獸ヲ捕テ以テ業トスヨク氷上ヲ走ラコシ捕ル
 一甚ク捷ナリ此土人ノ形軀顏色面軀ニ北亞墨利加ノ
 北方海邊ノ人ノ異ナリトシ且其風俗モ亦同シテ平常猥瑣ノ
 事ニ悉クシテ皆サシモ替ハリトシ又其地共ニ「ベエハ」名「カストセム」
 ト云ヘル獸(蝦夷、カスツル)多ク西地ノ土人共ニ亦專ラコレヲ取リテ務ムナリ
 止白里シバライノ内ノ諸山川ノ記第十五
 止白里ノ地都ラ山嶽多ク皆高大險峻ニシテ魯西丑ノ本國ト

山家
山嶽

止百里ト、疆界、処、殊ニ山家排列シテ恰モ帯ノ如クニ連亘シ
其間、只狭キ道路數條ヲ通ス、こゝに行旅、往來敢テ
容易ナリトセズ故ニ魯西亞帝都ヨリ其要道、処、皆守兵
ヲ置クコトニ其往來出入ル諸人ヲ検査シテ行旅、者ヲ
シテ安全ナラシメン^ト欲シテナリ

其岩石多キ、大山ヲ呼ンテ「ホヤム」又「ホヤム」ト云フセ凡ノ脊ノ大
骨ト云ル義ナリ又呼ラ「セミスカノイ」ト云フコレハ大地ノ帯ト云ル
義ナリコレ此山長ク諸州ノ地ニ連亘ス北山北方氷海ニ起リテ魯
西亞、本國ト止百里加山亞私太臘甘、地トノ間隔ニ尚遠ク
連亘シテ「モンカン」(蒙古)「カトリカ」、辺ヨリ支那、長城、辺

ニ至ル又一面、南方ニ亘リテ加尔謨幾、及ニ至リ古ハ世ニ此大山
ヲ呼ラ「モンテスニリ」ト云ヒニナリ

魯止亞ヨリ此大山ヲ過キテ止百里ノ地ニ通テ、路數條アリ而シテ
其内、一途、カトリカトシセ、カトリカノ地内ヲ凡リ行ク、四日程ナル間ニ
「トモンテスニリ」ト名ク此路、惟冬月、ニ往來ヲ通スヘシ冬月
ハ其路、氷雪堅凍^凍ニテ却テ行路ニ宜シ夏月、氷雪溶解
シテ路、次悉ク淤泥ニテ往來ヲ通シカタク故ニ行路、間若シモ
夏月ニ當リ、此處ニ至リ来シハ其通シカタク^ト必ス「ソリカムス」^ト
ノ地ニ留リテ寒氣、烈ルヲ待ツ且又北山、西ニ當ル處ニ水路アリ
ト雖モ最荒流、河水ナルヲ以テ危除タルヲ恐シ商賈、徒モ相戒

テコレヲ過キ又官府ヨリ其往來ヲ禁ルニ等シ因テコレヲ畏守
テ猶止百里ノ人トコアイカドレノ海峡ニ船ヲ泛ベテ其危難ヲ畏ル
ガ如シ凡ソウエガトリセヨクセリ山内樹木多クミラ良キ深林ヤリ
且種々ノ藥艸ヲ産ス又山ニ悉ク白瑪瑙石アル処セアリ然レハ
其險峻ナルヨリ人コレニ登リテ採ル者鮮シ

止百里ノ地内ニ河水極テ多ク只其源諸山ヨリ出ルルニナラズ諸処
湖水沼澤ヨリコレヲ出テ流ル者モ亦多ク其内ニ最大ナル者四ツ其

一阿地河其長ハ一里スモ一河其長ハ一里スモ一河

龍（利明曰ク日本東蝦夷ノ島々相連シテ二十餘島アリテ「カシノカサカ」ノ
江ノ大地ニ在リ此大地ハ亞細亞東端ノ北岬ナリ此大地ヨリ西ニ地遠キニ「オホ
ツカ」ノ縣ニ在リ此「オホツカ」ノ南方「サンサヤ」ニ至リ「カラフ」ト大地ニ在リ此「サンタ
ニ」ニ在リ「カラフ」ト大地ニ在リ此「サンタン」ハ「カラフ」ト取ニ大河ヨリ蝦夷ノ土

北北北

Amur

阿比河古ハ世ハ「カラフ」ト名ケリ其源ハ西南ノ「キタイ」湖ヨリ出テ
加爾蘇綫ノ北ヲ流レコロシテ「ヤン」ト止百里（日本國止百里）「オスギ

合流ニ其幅廣ク其底深ク水流町強ニテ船行容易ナリトセズ
時ト怒波激湍甚ニキヤアリ河ノ廣キ處ニシテ一里（日本）或ハ

半里（日本）ナルヤリテ其内多クノ洲嶼アリ材トナスヘキノ樹

多ク其ニ叢生セリ此河ノ東岸高山連亘シテ人居少諸
穀ヲ産ス亦菓菜及蜜モ産ス其一種ノ穀アル菓ヲ「セテル

人コレヲ名ケテ「アムル」ト云
「アムル」ト云フハ「アムル」ト云
ナリ

山「オフトソイ」リセテリイ「サ」地ヲ過キ「サ」地ニ至リテ數口ニ

分レテ氷海ニ注ク此河ノ海ニ至ル間多ク他ノ大小ノ河水コレニ

合流ニ其幅廣ク其底深ク水流町強ニテ船行容易ナリトセズ

時ト怒波激湍甚ニキヤアリ河ノ廣キ處ニシテ一里（日本）或ハ

半里（日本）ナルヤリテ其内多クノ洲嶼アリ材トナスヘキノ樹

多ク其ニ叢生セリ此河ノ東岸高山連亘シテ人居少諸

穀ヲ産ス亦菓菜及蜜モ産ス其一種ノ穀アル菓ヲ「セテル

ホオム(名樹) 上ニ結ル物アリ人惟狩獵スル業トオム然レモ其西岸ハ平地沃壤ナリ

「イダヌ」河又名「イムキス」又名「アルトイム」又名「サキス」ト云其源ハ加尔護幾ノ地内ヨリ出ラ南ヨリ東北流ハ一ニ百里(日本ノ二三百里) 其間東南ヨリシラ「オム」河トシ「河」カカ「河」ハ「レカ」河西北ヨリシラ「オム」河「イムキス」河「リガ」河「トホ」河「テムヤンスヨ」河「シタ」河皆是ニ合流セリ此河水甚清潔ニ処トシテ其幅一里(日本)ニ及ル処流勢甚勁シ河内魚類極テ多ク「オム」魚(ニ里)ニ及ル者其値五六コリス(我ノ名其値下ニ云)若クハ五六重サ四五十斤ナル者其値五六コリス(トイヘルニ相同シ)若クハ五六トイヘル(和蘭ノ銀)ナリ此河、東南、岸ハ亦皆高山連

亘テ惟多ク「マテルボラム」(名楡)ヲ生ス西北、岸、地ハ平坦ニシテ多ク黑龍狼赤狐及漆黒色ノ狐シ産其黑熊時々シテ城市ニ遠キ村落ニ偷カニ来ラ人家ニ所畜ノ牛羊、類盗マントシテ其居人ニ獲ラセ、トヤリ

「トホ」河ハ流レテ「イルダス」河ニ合、河ハ兩岸ヨリ「トコ」「カ」「ピルク」「ムルカ」「イセネ」「ホラ」「キユ」「シヒカ」「クフタ」等ノ諸小河流シテコレニ合「トホ」河ハ兩岸地都テ低湿アリ先年水大ニ西岸、地ニ溢ル「トヤリ」ニ因テ人皆居リ移シテ岸ヲ去リ一ニ里ニシテ昔西亞人及韃靼人多ク居住セリ此河都テ魚ヲ出ス「トヤリ」河ニ合スル諸小河内「クワタ」「トマ」河ニ合シテ

其ヨリシテ「トホル」河ニ合ストモホリ

「タガ」名「タガ」河「レラ」「ハコシ」河「レラ」合テ而シ「トホル」河ニ合
「チテ」河「ハサ」ダ「タギ」子「ワ」名「子」ヤ「ハ」三河「コ」合セリ「チ」テ

「ト」コ「レ」其「人」ノ「方」言「シ」テ「古」里「ノ」分「界」ト「云」ヘ「シ」義「ナ」リ「ト」其「サ」

「ル」ガ「河」其「初」メ「レ」セ「ス」一「名」シ「ユ」ス「ト」云「ル」河「コ」レ「ニ」合「シ」テ「ヨ」リ「水」流

稍「大」ニ「シ」テ「ク」レ「ヨ」リ「ラ」ト「サ」ト「云」ヘ「ル」河「ニ」合「コ」レ「ヨ」リ「水」流「強」ク「シ」テ

「チ」テ「河」ニ「合」ス「ル」ナ「リ」

「ワ」河「名」ワ「カ」ト「云」フ「レ」大「河」ニ「シ」テ「其」水「色」黧「赤」ナ「リ」西「北」ヨ「リ

流「レ」来「リ」テ「ナ」ク「云」フ「城」邊「ニ」在「テ」阿「比」河「ニ」合「ス」

「レ」タ「河」平「坦」ノ「地」ヲ「流」シ「其」邊「都」ラ「小」林「多」ク「其」林「中」ヲ「通」流「シ」テ

赤「阿」比「河」ニ「合」セ「リ」

北「外」ノ「ホ」フ「カ」「イ」ワ「キ」ン「ア」ニ「ル」「カ」セ「ア」「ガ」シ「ア」ハ「ガ」ル「カ」「ゴ」リ「ガ」「リ」シ「サ

ナ「リ」モ「ロ」茅「諸」河「ハ」シ「タ」河「ノ」北「ニ」ア「リ」又「ウ」ダ「シ」「ミ」ロ「ス」カ「ヒ」ダ「チ」「ウ」キ「フ

茅「諸」河「ハ」シ「タ」河「ノ」南「ニ」ア「リ」皆「流」シ「テ」阿「比」河「ニ」入「ル」レ「タ」河「流

レ「ス」甚「屈」曲「シ」テ「其」河「ニ」沿「テ」旅「行」ス「ル」者「夕」ニ「至」テ「食」ヲ「為」ル「時」

其「先」キ「日」中「ニ」食「ヲ」為「セ」ル「處」ト「其」道「徑」ヲ「相」望「ミ」遠「カ」ラ「サ」ル「處」モ「間

々「ア」リ「ト」云
明詩、河流曲々轉十里
還相望下云云、類ナリ其「邊」ノ「地」雞「ケ」ル「ガ」ン「名」ト「云」フ

タ「ン」テ「ル」(野「鳥」類)茅「諸」鳥「朝」夕「彫」レ「ク」河「邊」ニ「相」集「テ」水「ヲ」飲「ム」舟「行」ス

者「毎」射「テ」モ「コ」ヲ「取」テ「多」ク「然」レ「此」河「中」ニ「魚」少「ク」河「邊」ノ「如」キ「人」居「モ

亦「稀」ナ「リ

香臭シテ
人食スル

又百里地一、大湖アリ、其水色黒シ、サモエデン、人呼テ死海ト
云フ、北湖中惟一種、黒色ノ大魚ヲ産ス、其味悪リ、香臭シテ人食ラ
カハ河一名加馬ト云、北河次羅巴、亞細亞、大洲、界ヲ分チ、諸方ニ屈
曲シテ流ル、凡五百里(日本、千里)、加少ナキ、魯西亞、里程ニ六十里入
尔馬泥亞、里程ニ十里(日本、三十里)、此処ニ富尔加河ニ合セリ、此河
止百里、地力ヲ曲流ス、間ニ井セツテ、ウハ口、而河コレニ合シ、水
流、迅速ニ又レハカリテ、レクシナ、ダレヤカ、等ノ山流、レサロヤ、河ニ入テ
共ニコレニ合セリ、レサロヤ、河コレニ渡ル、水ト安穩ニ其辺ノ地肥沃
ナリ、カハ河、諸種ノ魚類充滿シ、其兩岸ノ土地肥沃ニシテ、大ナル
城邑村落田園多ク、亦花菓樹林多シ、此河其源、白尔未雅

地ヨリ出テ、東北ヨリ流レ、其廣サハ、ウエセル、河、同シ、水色黧淡ニシ、
頗ル湧泉、如ク流勢甚ク迅速ナリ、(カエセル河、入尔馬泥亞國、大河)
「エニナ」河、又「エニナ」又「エニチ」又「エニセ」ト云、(ハク、タ、シ、シ、又「ハロ、ハ、シ、エ、ス」)
ト名ケリ、其源、加爾讚幾、山辺ナル、キルキセント、地ヨリ出テ、北流シ、
テ、米海ニ入、其間、四方ヨリ流レ、来テ、コレニ合スル、大ナル、河、極テ、夥シ
此河水甚ク清澈ニシテ、魚ヲ産スル、ト少ナク、流、テ、極ニシテ、波浪
高シ、其「エニ」ニシテ、城地近キ、処ハ、阿比河ヨリモ、幅廣シト云、此河
其一岸、地、亦都テ、高山重層ニ對岸、地、廣キ、平地アリ
春ニ至リ、此河水大ニ溢レテ、地上ニ漲リ、地平ニ溢ル、一、九、七、十、里、計リ
(日本、百)、恰ニ限入多國、(亞非利加洲、東北地端國)、泥祿河ニ似テ、水、及テ、地ハ

此函ヲ甚々肥沃ナラシム故ニ「エシキユセ」ノ人水ノ漲ラントスルハ山ニ上リテコレヲ避ケ水邊キテ土地ノ乾々ハ則山ノ下リテ其所畜ノ牛羊ノ類ニシテ平地ニ放テコレヲ食シ覓メシム此地ヨリシテ「サモエ」ノ地ニ往來スルハ行路甚々便利ナリ河トナレバ此「エシキユセ」河ト阿比河ト間ニ「エシキユセ」河アリ「エシキユセ」河ト「トルカ」河ト陸路僅ニ重(日本四里)ニ過キズ故ニ水路多クシテ陸路少キヨリ行旅ノ便利アリトスルナリ然レバ此「エシキユセ」河ノ中ニ水激シテ飛泉ヲ為ス処凡九アリコレヲ「ホロシ」又「カロケス」ト名ク此飛泉相會スル処ハ舟行危キ「アハ」ヲ以テ人毎コレヲ避ケルナリ又「エシキユセ」ト夫時ノ舟ヲ北海ニ發シ鯨ヲ捕シ其仲間々ノ還ラズコト人ノ終ニ其舟如何ニリト云フ「アハ」ヲ知サハ「アハ」間々

アリコレ蓋シ鯨ヲ捕ントシテ彼海ニ留ル間ニ誤テ冰山氷柱ノ類ニ觸レテ其船壞レテ海ニ沈ミタル者ナレバ又「エシキユセ」河ノ上流「ヒエガ」ノ府ヨリモ船ヲ發シ毎年ノ夏月北海ニ往テ鯨ヲ捕ル然レバ其時節ヲ考ヘテ風ノ地上ヨリ猛發シテ氷碎散スル條ヲ以テ用捨テテ彼レニ至リ鯨ヲ捕リテ歸ル故ニ其船嘗テ誤失ナシト云ヘリ「エシキユセ」河「アハ」河「エシキユセ」河ニ合メ共ニ「エシキユセ」河ニ入ル而シテ「エシキユセ」河「アハ」河「エシキユセ」河ニ合メ共ニ東南ノ南(針盤ノ方位ヲ以テ云彼方ノ針盤ハ方白ヨリ三十二分ヲ方位ノ極ニナリ)ヨリ出テ東北ノ北(コレ亦北ノ所言ニ同)ニ向テ合流シ亦「エシキユセ」河ノ南ヨリ出テ北ニ向テ流レテコレニ合スルニ蓋其源ハ「エシキユセ」ノ地ヲ去ル「アハ」八里(日本ノ十英里)ナル「バイカル」湖ヨリ出ルナリ凡「エシキユセ」河ハ

甚魚多クシテ「ステウレ」ホロツレン(共ニ魚)後魚等絶シテ大ナル者アリ此河、廻ル所ニ丁嶋アリ「サバノイト」云コノ魚嶋ト云ヘノ義ナリ此嶋魯西亜、人多ク居住セリ「エキコウ」ノ地ヨリシテ此河口ニ至ルマテ、間ハ冬月寒甚ニシ雖モ水曾ラ氷凍セス却テ漲リテ兩岸ノ地ニ溢シ直ニ氷海ノ入口ニ至ルマテ水都テ迅急ナリ然レモ夏ニ至ル水勢低ク兩岸ニ漲溢ルコトナシ此河水ノ中ニ岩石アル所ニ水勢高ク越ルニ因テ飛泉ヲ為ス者凡五ヶ処アリ其「コ」ホグメン「ニ」ヲ「ヘ」ア「ニ」ニ「コ」ホヂユ「イ」四「コ」ボロケ「ハ」ル「ゲ」五「コ」シカマ「ン」ス「コ」イ「ト」云「シカマ」ンス「コ」イ「ト」ハ「コ」レ「妖」谷ト云ヘル義ナリ其地方ニ世ニ名高キ「ト」ン「キ」ニ「シ」、妖術ヲ為ス僧居住セリコレヲ「シカマ」ニ「シ」ト「蹄」ス

此僧恒ニ此水邊、岩石ニ於テ法ヲ修ス其苦修ノ法甚奇除ナリ何レトナレハ水漲ルニ高其水勢ニ乘リコレヲ渡テ彼岩石ニ至ルヘキナレ水、退キテ低キ時ニ波岩石高サ半里(日本)計リヤリテ水底亦岩石ニ至ルニ彼レ何、術ヲナシテ水ヲ越ヘ其岩頂ニ上リテ静坐修行スルナリ凡此熱ノ極テ急流猛烈ナルニ其兩岸ニ及ヒ中央多ク岩石聳ヘタルニ因テ其波濤、岩石ニ當リ觸ルハ、聲極テ剛猛ナリ此岸ツルヘテ入ル馬泥亜、里法ニテ三里(日本)間ハ其聲嘈雜トシテ堪ヘカラス船師此流ニ泝ラントスルニ此飛泉ヲ為スル処ニ至ルニ空船ト雖モ多ク、低迴スルヘテ五六七日其風起テ恰モ好、節ヲ待テテ即其風勢ニ乘リテ急ニ泝リ過タルナリ又ハ其水

淺クシテ岩石高キ時亦终日船進ム能ハシテ其業ヲナス
ト其難方ナリトセリ故ニ諸船舶此河北難所ヲ過クル其危
除クラントスル処ニ至ハ則其貨物ヲ陸ニセテ運送セシメ除
処ヲ越テ後舟ニ船中ニ載ス其急流処凡ソ半里餘(日本ノ
一里余)若
時トシテ十分(一度ヲ六十分ノコレカ分トス十分ハ入馬泥丑
一里法ニテハ三里日本一里法ニテハ六里許リナリ)ニ及フア
リ若又貨物ヲ船載セテ其急流処ヲ渡ラントスル危難極テ甚
シクシテ風波ノ猛烈ナルニ因テ動モスル湾曲処ニ漂ヒテ波勢ニ捲
カレテ沉ムトアリ故ニ急流処ニ至ラントスル船前後ニ舵ヲ具ヘテ
速ニ艦ヲ押ス用意ヲナス船舶師ノ目勢ヲ以テ指揮スル隨テ舵
工一齊ニ舵ヲ揺カシテ速ニ急流ヲ濟ハナリコレ此処波勢極テ

猛烈ナルニ因テ叫呼ノ声人々ノ耳ニ聞サレ因テ只目勢ヲノミ
度トシテ速ニテ過クルナリ然レモ未ダ其技ヲ習熟セサル船舶師
其船ヲ運轉スルニ拙キ者間ニ暗礁ニ觸テ船碎ケ人溺レテ救
イテ得ヌ一瞬時ニ自ラ岩石ニ中テ骨肉粉碎シテ死屍ヲ得ル
トモ稀ナリ此ノ如キ事動モスル毎歲コレアリト云
「ハイカル」湖ハ入馬泥丑國ノ里程ヲ以テコレ計ルニ幅六里(日本ノ
十二里)
長サ四里(日本ノ
八十里)寒氣甚キニ忽ニ氷凍張合ナリ故ニ冬月ハ
棧車ニ駕シテ六時(日本ノ
三時)ノ間ニコレヲ渡ルハ然レモ甚危険ナ
ルトアリ若シ大風起ル時ハ必ス雪ヲ飛ビ其棧車ヲ牽ク馬ハ
其蹄ニ尖利ナル鉄背ヲ穿タシムコト其氷上極テ滑ナルヲ以テ

其蹶カニイ防クナリ其雪如風吹散セラレテ敢テ氷ニ留ル
イナシ又其氷上処々風穴アリテ此穴ハ乳ヲ通シテ敢テ氷ヲス
行旅ニ人最モソシテ怕ル若馬蹄ノ鉄指尖利ナラズシテカモ大風
ニ乘リ氷上ヲ走レバ氷上滑リテ蹄ヲ陸メカタク動スハ勢ニ
ニ乘リテ橋車馬俱ニ穴中ニ陷ル故ナリ其風最烈シキ時ハ則
厚氷ヲ嘘テ破リテ氷片ヲ嘘テ散シ其響キ恰モ雷霆ノ如シ然レ
氏風息ニ暫時ニ氷復合シテ故如駱駝及牛ノ如キモ
此氷ヲ渡ハ亦其蹄ニ鉄指ノ尖利ナ者ヲ穴中ニテ其
滑リ防リナリ此湖水其味甘シ時清澄ニテ綠色ナハハ則
海水ニ似タリ諸魚極テ夥シムスウレシニ魚及梭魚ノ大キ者

重サ二百斤一百ニ至テ夏月ニ至テ氷解ルハハセエホンチン海獸
海大ト云ハ義ナリト申野史云夥シ但シ其毛色黒クシテ斑文ニシテ恰モ白海所
則水約ナリト云ハリ
産者如此湖周迴ニハハシテ州ニモガン州蒙州ニモガン州蒙州ニモガン州
等ノ人居住セリ亦此湖邊ニ於テ黒色ニシテ義ナシテ貂ヲ獲ルナリ
土人及諸方ノ人此湖邊旅行セシニ或ハコノ湖ナリト云ハ或ハコノ湖
海ナリト云フ然レモコノ湖ヨリ詳ニスルニ其水甘ク則其湖ナリト明ケシテ其コノ湖
海ト云フ者ハ其暴風多クシテコノ湖ヲ渡ルニ難艱ナリ因テ誤テ海ト
稱ス者ナリ此湖ヨリ出ル所ハハガリ河ハ西北流シ通ル又セリカ河
ハハガリ河ヨリ出テ流シテ此湖ニ入ル又處々山間石録ヨリ流シ出テ
小流ヲナス者多ク此湖ニ入ル其入ル所ニ數ハ小嶋ヲ成スト云

「ウダ」河其源「エラウ」湖辺、沼ヨリ出、此「エラウ」湖、昔西
亞ノ里法ヲ長サ十里幅十五里アリト云「ウダ」河其幅甚廣カラ
ズ「ウ」デンスコイノ城ヲ去ルハ四半里（コレハ余馬泥亞ノ里法ニシテ日本ノ半里ニ當ル）ナル処ニ至リテコ
レヨリシテ西流シテ「セリガ」河ニ合セリ此河終年魚少ナシ只少シ
「梭魚」及ヒ「ホ」ウシシ（名）ノ類ニアルミ然レ毎歲六月（昔種ノ第六日ヨリ夏至ノ第三十
二日ニ至ル）ニ至レハ一種ノ魚夥シク「バイカ」湖ヨリシテ流シテ傳ヘヨシ「ホ」ル
土人此魚ヲ名テ「オ」シユリト云テ其脊胎輔魚ノ如シ然レ此魚敢テ
遠ク「ホ」ルニ非ス「ウ」デンスコイノ城邑ホマデテ「ホ」リ至リテ一二日経レハ
又「バイカ」湖ニ還ルナリ土人其「ホ」ル時ニ至レハ夥シク相聚テ河
ニ入リ其水ヲ游クハ極テ輕捷ニテ魚ヲ獲ルハ甚多ク而岸

ニ舟船ヲ列テ其採ル所ノ魚ヲ収メ又其漁者、晚キタル夜眠テ
皆舟中ニ寢テ以テ用ニ便リス又「オ」ナ「キ」ニ「バ」ト云ル「河」アリ其
西北ヨリ流レ来テ「ウ」ダ「河」ニ合セリ

「ウ」ダ「河」名「カ」ナシ又名「シ」イ又名「レ」イ又名「レ」イ大テ「アイ」フテト云フ
コレ上ニ所謂四大河、第三ニシテ其源「バイカ」湖、東南、止白
里ト「ダ」ウ「ア」州ノ界ヨリ出テ流レテ北海入ル其間ニ有名ノ河南
ヨリ流レテ此河ニ合ル者「ウ」サ「キ」ム「カ」ラ「マ」カ「サ」等ノ河ナリ此「レ」
「ウ」河ノ流、辺「ウ」ス「コ」ンス「イ」「キ」レンガ「サ」等ノ地、土地肥沃ニテ耕種ニ
宜シク多ク諸穀ヲ産セリ誠ニ「マ」キ「ユ」イ「レ」ノ地方、食庫ト稱
スルニ堪タリ故ニ諸穀值賤シク大麥ノ物百斤（百ニテハ或テ百斤ハス）

ニテ其價ハ「和蘭小銀」ナリル（數重ニ分）トナリ河

其急流ナル「マセ」河、如ク其河口、合ハ、亦阿比河及「エシ」

河、如ク多ク、岩石沙渚ナルニ因テ、船行ス、者甚タ「マセ」慎、避ク、難

艱、人、獸皮ヲ以テ、小舟ヲ造リ、コレヲ渡シ、其速ナリ、又平坦ナル

船ヲ造リ、此河ヨリ海ニ泛シ、岸ニ傍テ「ホルロス」（海馬、其説下、物産條ニ詳ナリ）

牙及ヒ鯨油諸物ヲ採得テ、還テ、交易ヲナス、貨物トセリ

「コ子」河、又名「井」ト云、其源「ネリム」ハ、城地ト「コロト」ヒスカ「ハ」タル

邑ノ間、北辺ニ、浦ニ、岩石多キ、峻山ヨリ出テ、東北ニ流レ、レ「シ」河ニ

合、其ニ、北海ニ注ク
「マセ」河、又名「マシ」ト云、（支那）「美龍江」ト云、則、昔、里、總州、内、第四、大

河ニテ、諸河、最東ニヤリテ、流レテ、日本海ニ入ル（日本、属、大地、カ、ラ、フ、ト、レ、ハ、ナ、サ、ク、

「シ」ト、取ナル、大河ニテ、蝦夷、土人、此、大河、ヲ、入、海、ナリ、ト、覺、ヘ、タ、リ、サ、レ、ト、ア、

「シ」ト、云、此、河口、ノ、東、方、ハ、皆、蝦夷、ノ、土、地、ナル、ヲ、以、テ、西、洋、ノ、人、稱、日本、海、ト、云、ナル、ト、云、

其、源、ハ、カ、ワ、リ、ア、レ、地、ヨリ、出、テ、則、其、河、ノ、名、ヲ、セ、リ、カ、レ、レ、又、ク、ウ、ル、ト、云、

「シ」ト、云、コレ、ヨリ、シ、テ、流、ル、ノ、間、ヲ、ハ、ス、シ、カ、レ、ト、名、ケ、又、コレ、ヨリ、シ、テ、流、レ、

「シ」ト、始、テ、ア、シ、ル、ト、稱、セ、リ、此、河水、氷、ノ、稀、ニ、又、岩、沙、渚、ノ、類、ヒ、ナ、シ、

然、レ、河、中、蘆、荻、ノ、類、ヒ、非、常、ニ、蕃、茂、セ、ル、ガ、故、ニ、頗、ル、舟、行、ノ、宜、

シ、カ、ラ、ス、其、河、ノ、末、支、那、ノ、境、ニ、於、テ、ハ、夥、ク、真、珠、ヲ、出、ス、又、此、河、ニ、

合、ル、者、「エシ」河、其、淵、深、山、ヨリ、出、ツ、「シ」ト、一、名、「シ」キ、イ、タ、ト、云、ル、

河、甚、淺、ク、シ、テ、石、多、シ、人、每、ニ、筏、ニ、乘、シ、テ、コレ、ヲ、渡、ル、ナ、リ、

「シ」ト、河、ノ、東、北、方、「シ」カ、ル、セ、ル、湖、水、ヨリ、出、テ、南、ニ、流、レ、テ、「シ」ト、云、

此河合シヨリシテノ流レク「シキルカ」河ト名ル此水甚清澄ナ
リ其辺ニハ「モンガン」人ノ聚落多ク又「チサ」リニル河流アリテ
又「シキルカ」河ニ合セリ

「アルゴン」河ハ西南ヨリシテ東北ニ流レテ「アミ」河ニ合ス此河ハ則昔
西亞ト支那トノ兩國ノ界ニテ此河ノ東ハ昔ノ代ノ曠漠ノ大韃
韃ト稱セシ地ナリ又「セン」フレンユイ一名「シル」ヘルストロカム(銀波ノ

ト云ル河アリテ「アルゴン」河ニ合セリ此「セン」フレンユイ河ハ近傍ニテ
昔テ銀鑛ヲ見出シタルイナリ故ニ此ノ如クニ名ヲ附ク又「カラ
ビ」テ「ル」エ「カ」シ「メル」ケ「エン」「カイ」ル「サ」テ「シ」等ヲ諸河アリテ

皆流レテ「アルゴン」河ニ合セリ「アルゴン」河ハ一岸ハ大山アリテ樹

木茂翳シテ林ヲ成シ一岸ハ平坦曠蕪ニシテ亦樹木ヲ生セリ

「コル」トハ小河ニシテ流レテ「アミ」河ニ合ス此河モ亦魯西亞ト支那トノ

分界ニシテ此河ノ東辺日本海ニ見ルマテ、諸地ハ支那ニ屬シ(此地

東方ニ當テ「カラ」フ「ト」大地アリ「カラ」フ「ト」東端對シ松前所在嶋)此河ハ西辺日本海ニ至ルマテ、諸地ハ

魯西亞ニ屬セリ

凡ソ止白里ノ部内ノ諸河ハ上ニ云ル四大河ト合セスシテ自ラ流レテ

北海ニ入ル東海ニ入者モ尚多シ「トギ」ル「ム」タ(此「トギ」ル「ム」タ

名別)、西河ハ其「ア」シ「シ」河ハ北在テ各流レテ東海(日本海)ニ入ル此河ハ

海ニ入ル「ロ」ク「キ」テ遠カラサル所ニ至嶋アリ其嶋人舟ニ駕シテシバ、

大地ニ來ルイナリ(此島ハ「ト」ク「キ」嶋、西成ニ當リ渡海凡ソ百里計リ其

トク「キ」嶋、西成ニ當リ渡海凡ソ百里計リ其大船乘テ「ト」ク「キ」嶋、西成ニ當リ渡海凡ソ百里計リ其

「オグタ」河ニ「オグタ」河北ニヤリ「オグタ」西河ノ間ノ海岸ヨリシテ次

第ニ海ニ沿ヒテ「エススカアラ」(氷峯ノ英ナリト白里)ニ至ルマテノ間ナ

ル海辺ノ鯨魚極テ多ク殊ニカサヤカノ海湾ヲ最トス又「オハロ

ツセン」(海馬)「セエキンテン」(水豹)ヲ獲ルハ亦夥シト云又「アヤボウ

「ロキナ」西河ノ其辺ノ地理未タ詳ナラズ(利明曰「ロキナ」ハ「オキナ」トシ

ノ名ニテ身ノ丈凡三十柵ヨリ五十柵ニ至ルハ獨死「オキナ」ト云大鯨

ルアリ古今シラサル大鯨ナリト云皆人奇視セリ愚享和九年ノ夏

蒙欽命東海ノ遠沖ヲ渡海シテ蝦夷ノ「エキロ」東洋直渡セシ大鯨

夥ク群集シ凡三里四方ニ充滿セリ此大鯨ノ中火ヲ航通シタシ東蝦夷

東洋ニ大鯨夥キ「貯」如具外魚類甚潤澤ナリ又「アサホウ」

大河ノ名ナリ「造」ナリ所在「アサホウ」近辺ナル事未詳ナラス

「エイエカア」(氷峯)ハ又名ケテ「ヘイリ」ハホオルナガバ「タル」(聖峯)ト云

又昔西丑ノ人ハ呼ラフスウ「トイ」ス「ト云」此処最遠ク海上ニ鋭出

「アサホウ」シテ其邊數嶋アリ人コソヨリシテ「カムサカ」ニ向フノ間船路

南端ノ岬アリ日本東蝦夷ノ名直シテ其辺ニ於テ多ク魚及ヒ「セエボン」(水豹)ヲ捕ルナリ

「サシ」河多ク鯨魚「スチラル」(皆魚)等ノ諸魚ヲ

産ス而シテ其海辺氣候酷寒ニシテ海上氷凍ニテ処々氷山成ルル其

海風終歲嚴烈ニシテ氷塊ヲ波濤ト俱ニ吹寄ル一処ニ聚テ遂ニ山ヲ成

スナリ其風時トシテ最極ナル時其氷山破リ氷塊ヲ嘘散シテ海面

ヲ掃ッカカナルナリト雖暫時ノ間氷再ニ聚リテ復山ヲ成スル始メ

如シ其寒氣最甚ニシテ時ハ歲ヲ終ルト雖モ未敢テ解ケサルナリ

曾テ千六百九十五年(日本元禄七年)ヨリ千六百九十七年(日本元禄

九年)ノ間氷凍シテ消セサリシ「アサホウ」ナリ

康徳三(千七百二十一年)ノ間氷凍シテ消セサリシ「アサホウ」ナリ

レ河「モヤ」河、而大河、間ヨリ「タルシグ」河ニ近キ間、北方、土地、其
水陸地理未ダシク詳シス、「ワイルド」峡（カモエテシ、新増白蠟ヨリ
トノ間ノ海峽ナリ）ヨリ
シテ、「ユイカカワ」（氷葦）ニ至ル間、北海一帯ハ恒ニ氷ニ囚テ遠ク船
ヲ通スベカラズ、昔ヨリ「止白里」地方、全海岸ハ都テ氷ヲ以テ
コレヲ繞ラズガ故ニ「ワイルド」峡ヨリシテ北海ニ航海シテ「エモ
」河ヨリテ「モヤ」河ヲ得タル「ナシ」魯西亜人毎ニ「ワイルド」峡
ヨリ船ヲ發シ「阿比」河ヨリテ「蘇及」セエホシデン（水船）ヲ捕ルガ
為ニ「ワイルド」船ヲ駕シテ海ヲ渡ルニ若クハ風、海ヨリ起ルハ
船ノ氷ニ觸シ「イ」シ恐ルガ故ニ必ス処々ノ海灣ノ内ニ船ヲ容レテ
レヲ避ケ、再ニ其風、陸ヨリ起リ海水ヲ破リ其氷間ニ幅一二里、

海峽、如キ船路、通ルヨリ待テ方ニ船ヲ進ム是ヲ以テ海辺ヲ船
行スルニ必ス先ツ其海灣「イ」ル処ヲ知ルヲ以テ要トス若然ラサレハ
船動モスレハ氷山氷柱類ニ中リ觸レテ壊破スル「イ」アルナリ近キ処
ノ海辺「サモエテシ」ノ海辺其艱難斯ノ如シ況ヤ其遠キ海辺ニ船
ヲ通スル「イ」ハ敢テ能ハサルナリ

氷海一帯ハ「ス」デニ「ユ」ニ「エ」ル如ク人ノ盡ク其海辺ヲ過キ先者ナレハ
ハ多ク「ハ」コレヲ詳シセズ其内ニ畧セ知ル所者「ワイルド」峡ノ
辺ノ海灣「サモエテシ」ノ地圍マル者ナリコレヲ「サモエテシ」人ハ澤ト
云テリコレヨリシテ「阿比」河「モヤ」河、辺ノ海、皆「サモエテシ」地ヲ
リ讀者便ゼシメンガ為メコレヲ図ニ「イ」ラリス者ナリ

魯西丑國志卷之四終



